

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		Cocotto ここっと (放課後等デイサービス)		公表日		2026年4月15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	3	人数が多い場合1Fと分けて行っている。パーテーションを使って工夫して場所を作っている。	法令上適切ではあるが、子供たちの成長に伴いスペースが狭くなると思われるため、小活動室を活用する等工夫が必要。成長とともに狭くなっている。曜日や利用児童数、学年によっては狭く感じるときがある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	1	10人定員に対し平均4.8名を基本配置している。長期休み、土曜日など職員の休憩時間をずらしている。	適切ではあるが個々につきすぎる。時間帯によっては少ないと感じるときがある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12		構造化されているが2階建ての為階段あり。昇降時は職員が必ず付き添う。フンフロアなどで活動場所はバリアフリー化しているが、2階なので階段がある。そこは1人で使うことのない様職員間で気を付けている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12		終礼後毎日消毒・清掃を行う。活動内容に合わせて椅子やテーブルの位置を変えて行っている。利用者が使用するティッシュなどの消耗品などに補充されている。	清掃が細やかでないことがある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12		その日の状況により、個別対応に予定を変更したり1階の小活動室を使用することがある。気持ちが落ち着かない子は別の部屋でクールダウンすることができている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12		業務終了後は必ず振り返りを行い、次の活動計画に生かせるよう時間を作っている。全職員で振り返りに参加をしている。夕礼がとても熱心。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		評価表を職員間に共有し業務改善につなげている。職員が分かる場所に資料があり後は個々が意識して確認するようにしたい年に1回行っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		朝礼、終礼、月1回ミーティング等多く話し合いを持ち業務改善につなげている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	11	1	運営指導を受けている。	第三者委員の設置はあるが評価は行っていないので実施する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12		法人内外で各種研修の受講やオンライン研修受講必須にしている。オンラインの研修や外部研修などの案内などの提供がある。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		ホームページで必ず公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	12		児童発達管理者が細やかに対応している。面談を6か月に1度、ほか常に相談有。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		アセスメントや支援計画書を共有し、理解したうえで支援に生かしている。個別支援会議に児童発達支援管理者が参加している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12		書面、グループライン等を通して計画を共有し支援を行っている。経過記録の記入を必ず行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12		多くの目でインフォーマルなアセスメントを確認し、共有している。場面ごとに臨機応変に様々な方法で取り組んでいる。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	2	時々相談している。個々で考えているが、職員同士でアイデアを出し合っている。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		個々が担当している。職員が定期的に新しい活動を立案している。ラインワークスを活用し活動リーダーや内容について職員間で情報共有を行っている。活動リーダーがその都度変わり固定化することはない。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	11	1		職員や子供の様子、状況により（私自身）個人活動が薄くなる傾向があるが意識して取り入れた。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12			朝礼を行っている。昨日の様子、直近の様子の説明があり対応しやすい。毎回活動前に内容を確認し合い、どのような支援が必要なのかを打ち合わせている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12			夕礼を行っている。毎回振り返りを行い、気づいた点を共有するとともに一人一人の今後の支援方法について丁寧に話し合っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	1		業務日報と経過観察記録に必ず記録している。徹底できていない時もあるので意識していきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	12			年に数回地域との交流の機会を作っている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	12			危険なこと以外は、子供主体でのびのびとしていて良い。BGMのピアノも良い。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12			学校や学童と連絡を取っている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	12			送迎時に必ず申し送りを行っている。学校からの引き取り時、担当の先生からその日の状況を聞き取っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	12			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10	2		前例がないためわからない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10	2		かわさき南部療育センターから助言等受けている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	12			藤崎こども文化センターのイベントに参加している。地域のイベントにも積極的に参加し、地域の子供や大人との関わりを持つようになっている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10	2		担当職員が参加している。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12				
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12				
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12			紙面口頭にて伝えてもらっている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	12			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12			現場に入るため中々できないが、連絡帳に書かれているときには記入するよう心掛けるようにしたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	12		年に1回保護者交流会を行い保護者同士の交流の場を設けている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		職員間でも共有している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12		SNSはなるべく毎日上げるように工夫しています！！インスタなどでご家族に活動の様子を公表している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12			写真の取り扱いについて自分自身どうしようか悩んでいる。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11	1	年に数回行っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12		全通所児が参加できるように全曜日行っている。	子どもの安全面を考えると避難場所までは危険性が伴うため難しい。安全確保内ではできている。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	1		事業所内で提供している物に該当する食物アレルギーの児童はいない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12		毎終礼時にヒヤリハットの有無を振り返っている。ヒヤリハットがあった時には、その都度書面で全職員で内容を共有するようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12		委員会を設置している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	11	1	今はないが今後力が強くなってくる児童には必要になるかもしれない。	善意で行った行動が虐待とつながることもあるので意識して接していきたい。	